

## 公益社団法人日本地震工学会 第55回理事会議事録

**A.日時：**2021年12月13日（月） 16時00分～19時00分

**B.場所：**建築会館およびZoom オンラインのハイブリッド開催

**C.出席者：**（会長）清野純史，（副会長）山中浩明，藤田 聡，松岡昌志

（担当理事）米澤健次，西村拓也，樋口俊一，古屋 治，隈本邦彦，久保智弘，

鳥澤一晃，池田隆明，能島暢呂，市村 強，肥田剛典，近藤伸也

（監事） 末富岩雄

欠席：（担当理事）松島信一，（監事）五十田博

オブザーバ出席：戸田薫子事務局長，小松康典事務局長

**D.議題および提出資料：**

**議題**

**報告事項**

- |                                   |          |
|-----------------------------------|----------|
| 1) 第54回理事会議事録（案）の確認（西村理事）         | 資料 55-01 |
| 2) 第20回正副会長会議報告（米澤理事）             | 資料 55-02 |
| 3) 会務報告（米澤理事）                     | 資料 55-03 |
| 4) 会計報告（樋口理事）                     | 資料 55-04 |
| 5) 広報部会からの報告（隈本理事）                | 資料 55-05 |
| 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事）      | 資料 55-06 |
| 7) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事）             | （資料なし）   |
| 8) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事）     | 資料 55-08 |
| 9) 論文集編集委員会からの報告（能島理事）            | 資料 55-09 |
| 10) 事業企画委員会（企画）からの報告（肥田理事）        | 資料 55-10 |
| 11) 17WCEE 運営委員会からの報告（清野会長）       | 資料 55-11 |
| 12) 2021年度大会に関する報告（市村理事・松島理事）     | 資料 55-12 |
| 13) 将来構想委員会からの報告（山中副会長）           | 資料 55-13 |
| 14) 第16回日本地震工学シンポジウムの運営進捗報告（西村理事） | 資料 55-14 |

**議案**

- |                               |          |
|-------------------------------|----------|
| 第1号 入退会者（西村理事）                | 資料 55-15 |
| 第2号 委員会委員の委嘱（米澤理事）            | 資料 55-16 |
| 第3号 共催・後援・協賛等（西村理事）           | 資料 55-17 |
| 第4号 役員選挙のオンライン化について（樋口理事）     | 資料 55-18 |
| 第5号 ESG研究会の開催について（山中副会長・松島理事） | 資料 55-19 |

**懇談事項**

- |  |          |
|--|----------|
| 1) 功績賞、功労賞の候補者について（米澤理事）                           | 資料 55-20 |
| 2) 2021年度活動報告、2022年度活動計画・予算案の作成について<br>（米澤理事・西村理事） | 資料 55-21 |
| 3) 次期理事会の体制について（米澤理事）                              | 資料 55-22 |
| 4) 来年度(2022年)の年次大会について（市村理事・清野会長）                  | 資料 55-23 |
| 5) 法人クレジットカードの作成について（米澤理事、戸田事務局長）                  | 資料 55-24 |
| 6) 来年度事務局の体制について（米澤理事、戸田事務局長）                      | （資料なし）   |

## E.議事録：

### 議題

### 報告事項

#### 1) 第 54 回理事会議事録（案）の確認（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 55-01 に基づいて第 54 回理事会議事録（案）の確認が行われ、異議なく承認された。

#### 2) 第 20 回正副会長会議報告（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 55-02 に基づいて第 20 回正副会長会議報告について説明された。
- ・ 功績賞については久保哲夫先生、吉田望先生を、功労賞は徳光前理事と 17WCEE の運営委員会全体を正副会長会議からの候補者とする。
- ・ 1 月 19 日に内閣府の立ち入り検査が予定されている。清野会長、総務の米澤理事、西村理事、会計の樋口理事および事務局にて対応を行う。

#### 3) 会務報告（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 55-03 に基づいて会務報告について説明された。会務報告に 11/8 に開催された 2021 年度第 10 回将来像検討 WG を追加することとする。

#### 4) 会計報告（樋口理事）

- ・ 樋口理事より資料 55-04 に基づいて会計報告が説明された。
- ・ 77 名の正会員、23 名の学生会員が会費未納である。12 月および来年 2 月に督促を行う。毎年この程度の未納者がおり、督促により未納者が減っていく。また、理事から知り合いの未納者に声掛けを行うことも過去に実施したことがあり、未納者を減らす一つの手段である。
- ・ 一般事業収入のうち、論文投稿料収入、調査研究収入が低い。
- ・ 論文事業費支出が多めになっているので、今後もチェックする必要がある。IT 事業費はアーカイブ化事業により当初より支出が増えている。年次大会の収支は黒字であった。

#### 5) 広報部会からの報告（隈本理事）

- ・ 隈本理事より資料 55-05 の広報部会からの報告がなされた。
- ・ 11/12、15 に年次大会のプレスリリースを実施し、5 社から大会の取材申し込みがあった。ただし、記事の掲載はいまのところなさそうである。記事を見つけた場合は、事務局へ報告することとする。

#### 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事）

- ・ 久保理事より資料 55-06 に基づいて情報コミュニケーション委員会からの報告がなされた。
- ・ メールニュースを 2 回配信した。また NEWSLETTER として、木質構造と地震工学の特集号を 12 月発行予定である。
- ・ 次回の委員会は 1 月実施予定。次期委員長にも参加いただく予定である。
- ・ ホームページのセキュリティに関する更新について、エクセルシアから見積を取得し、予算内であったため調査および更新作業を発注済みである。また、事務局からの要望事項も整理し、あわせて更新を行うようにしたい。
- ・ 将来構想委員会の中で議論があったメール会員について、対応できるようシステムの機能追加

を検討中である。

- ・ オンライン投票についても検討を進めている。
- ・ アーカイブ化については、サーバー容量の更新後、アップロードを順次実施予定である。

7) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事）

- ・ 鳥澤理事より会誌編集委員会からの報告がなされた。
- ・ 前回理事会以降に委員会は開催されなかった。今後の委員会は 1/19、2/10 に開催予定である。来年 2 月の会誌発行に向け準備中である。

8) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事）

- ・ 池田理事より資料 55-08 に基づいて国際委員会、地震災害対応委員会からの報告がなされた。
- ・ 地震災害対応委員会では、鹿児島県トカラ列島近傍の地震被害について情報収集中である。情報がある程度まとまった段階で情報提供を予定している。
- ・ Newsletter12月号の英文記事として東北大の Hamood 助教より原稿をご提出いただいた。次の 4月号の執筆者を選定中である。
- ・ 執筆候補者の人選に難航している。博士課程あるいは博士課程を終えた学生の中で、研究成果が出ている方がいればご紹介いただきたい。
- ・ Newsletter1 英文記事の執筆候補者は、原則として学生会員の留学生であり、ある程度研究成果を出しておられる方がよい。本来は研究成果の内容についての記事がよいが、それ以外の技術的内容でも受け付けることとしたい。内容を聞かせていただき、委員会で検討する。卒業された社会人の方でもよい。
- ・ トカラ列島の地震については他学会と協働した動きを行っていない。構造物の地震被害として目立った報告はない。

9) 論文集編集委員会からの報告（能島理事）

- ・ 能島理事より資料 55-09 に基づいて論文集編集委員会からの報告がなされた。
- ・ 11/26 に論文賞候補者を論文賞選考委員会へ推薦した。12 月より論文奨励賞候補者推薦に向けた作業を開始。
- ・ 11/30 に論文集を発行。12/28 に英文号を、22 年 2 月に通常号をそれぞれ発刊予定である。
- ・ 英文セクションも含め、大会の論文原稿テンプレートを論文集のテンプレートを基本することが提案された。委員会からの提案を進めていくこととする。

10) 事業企画委員会（企画）からの報告（肥田理事）

- ・ 肥田理事より資料 55-10 に基づいて、事業企画委員会（企画）からの報告がなされた。
- ・ オンライン講習会の企画として、第 2 回機械学習・深層学習プログラミング講習と地震工学での事例紹介を計画している。構造計画研究所の滝氏に AI プログラミング講習会・応用編の講師を依頼し、内諾いただいた。また、地震工学分野での利用事例の紹介を予定しており、建築土木の各分野から計 2 名の講師（防災科研久保氏、広島大三浦先生）からも内諾済である。開催は 2022 年 5 月 9 日の週、もしくは 16 日の週を予定している。
- ・ 一般・中高生の講習会を企画中である。開催は 2022 年度夏休みを予定。テーマ案を検討中である。
- ・ E-ディフェンスにおいて室内空間における機能維持の振動台実験の現地見学会を来年 1 月 24 日に予定している。定員は 40 名である。博物館の内部を再現し、機械学習を用いて地震動によ

る室内被害を把握・判定する実験である。収入は参加費で合計8万程度、支出はバス代、駐車料など含め約7万円を予定している。

- ・ 第12回震災予防講演会の企画として、首都直下地震と都市防災について数名の講師からの講演を来年2/4にパシフィコ横浜アネックスホールにて予定している。
- ・ E-ディフェンスの室内空間における機能維持の振動台実験の見学会の申し込み先は日本地震工学会事務局へ訂正することとする。
- ・ また、E-ディフェンスの見学会に関するホームページへの掲載は、委員会からの指示後とする。
- ・ 振動台実験の見学会は、JAEE以外の方々も参加されるのかとの質問があった。E-ディフェンスでは別の日程で見学会が企画されているため、JAEEが主催する振動台実験の見学会はJAEEへ申し込んだ関係者のみの参加が予定されている。
- ・ コロナウイルスの感染拡大による見学会中止も想定しておいた方がよいとの意見があった。感染が拡大し、活動自粛等の企業の活動状況に変化が生じた場合、企業に勤める理事は肥田理事へ企業の活動状況を連絡することとする。
- ・ 振動台実験見学会の申込書の中にコロナウイルスが蔓延した場合による中止の恐れがあることについて記載することとする。
- ・ 振動台実験の見学会、オンライン講習会および第12回震災予防講演会の企画は承認された。

#### 11) 17WCEE 運営委員会からの報告（清野会長）

- ・ 清野会長より資料55-11に基づいて、17WCEE運営委員会からの報告がなされた。
- ・ 掲載論文数は2780編であった。発表形式について現地発表が4%、リアルタイムのオンライン発表が39%、ビデオ放映が39%、リアルタイムのビデオ放映が1%、キャンセルは17%であった。
- ・ 会議が終わっても動画を視聴可能な期間が12/24まで延長された。
- ・ 17WCEEの収支はまだ最終決定されておらず、次回には発表できる見込みである。

#### 12) 2021年度大会に関する報告（市村理事・松島理事）

- ・ 市村理事より資料55-12に基づいて、2021年度大会に関する報告がなされた。
- ・ 大会は無事に終了した。昨年度のオンライン開催から内容をアップデートして実施できた。今年度も防災ログに外部委託しスムーズに運営することができた。
- ・ パラレルセッションは3セッション、93題の発表で、昨年度よりも6題増であった。
- ・ 招待講演は京都大学防災研の飯尾教授、ケンブリッジ大学のEmily So教授にて、基調講演は海洋研究開発機構の堀氏にて実施いただいた。
- ・ 運営管理者（防災ログ）が建築会館会議室301号に運営システムを設営し、運営を行った。
- ・ 大会WEBページをIC委員会と協働して作成した。
- ・ 参加登録者は201名、参加費支払のある登録者は185名であった。
- ・ 収入は計112万円、支出はかなり削減され、オンライン会議管理費用の60万を含めて合計77万となり、収支合計は35万程度の黒字であった。オンラインでの資料配布、委員会をオンライン開催とすることで支出を抑えることができる。
- ・ 優秀発表賞は上位得点者9名に授与し、クロージングセレモニーにて表彰を行った。
- ・ 次回は東京大学楠先生が実行委員長、北海道大学中嶋先生が現地開催委員長として内諾を得ている。また、会場は北海道大学にて対面にて2022年12月15、16日に実施する予定である。ただし、コロナウイルスの感染状況によっては完全オンラインにて実施。来年度は対面開催であるため、準備開始を今年度よりも前倒しにする必要があると考えられる。

- ・ 概要集をコピーしないのは準備期間の圧縮や費用圧縮に効果があると思われる。

### 13) 将来構想委員会からの報告（山中副会長）

- ・ 山中副会長より資料 55-13 に基づいて、将来構想委員会からの報告がなされた。
- ・ 11/8 開催の 2021 年度第 10 回将来像検討 WG では、鳥澤理事に参加いただき、会誌について検討を行った。
- ・ 11/17 の第 11 回将来像検討 WG では久保理事、鳥澤理事が参加された。会誌、ニュースレターについて主に議論を行った。会誌とニュースレターに機能として重複している部分があり、整理することが改革としてすぐに着手できる項目であるとの議論があった。
- ・ 次回 12/15 10:00～は論文集について議論を実施。興味ある理事には連絡をいただければ Zoom の URL をお送りする。
- ・ 残っている課題についても、理事にご協力いただき議論を深め、あと半年でとりまとめを行う予定である。

### 14) 第 16 回日本地震工学シンポジウムの運営進捗報告（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 55-14 に基づいて、第 16 回日本地震工学シンポジウムの運営進捗報告の資料について説明があった。
- ・ 一般向けセミナー、および 16JEES の開催に関して、久田委員長、小檜山幹事長はじめ地震学会と地震工学会の関係者によるミーティングを 11/5 に開催した。11/5 のミーティング議事内容が報告された。
- ・ 地震学会にて 2023 年大会関連の一般向けセミナー会場を想定し、11/3 に横浜のはまぎんホールを仮予約している。
- ・ 一般向けセミナーは地震学会内の委員会にて原案を作成することとするが、その検討には地震工学会から山中副会長および松島理事も参加する。
- ・ 16JEES については、学術部会および会場部会の長、幹事を選定する。なお、総務部会長は小檜山幹事長が就任する。今回は建築学会が担当であるので、建築系の方を選定するほうがよいとの意見が挙げられた。
- ・ JAEE 事務局にて前回は参考に来年度の 6 月までのスケジュールの目安を決め、次回の 16JEES 打合せにて説明する。また、JAEE 事務局にて東京または横浜での開催を念頭に 2～3 の会場について、費用といつまでに予約すべきかを調査し、報告いただく。
- ・ 次回の 16JEES 打合せは 12/17 を予定している。
- ・ 前回は仙台開催だったため、総務部会とは別に東北大学の先生方を中心に会場部会を設けた。前々回に幕張メッセで開催した際は、総務部会と学術部会の 2 つの部会構成であり、総務部会で会場関連事項を担当していた。現状は会場部会を設けているようだが、東京開催であれば、これまでのように総務部会と学術部会の 2 つの部会構成で運営した方がよいかもしれないとの意見が挙げられた。次回の 16JEES 打合せにおいて上記意見を挙げることとする。
- ・ 前回までの幹事の経験より、部会の委員の先生方は学会代表で選ばれてくるため、幹事は委員の人選には一切関わっていなかった。委員の構成は幹事等のコアメンバーを固めつつ、学会のバランスを取るような形になるとの意見が挙げられた。次回の 16JEES 打合せにおいて委員の選定等について上記意見を挙げることとする。
- ・ 前回は国際的な位置づけは行われずに開催された。今回の国際的な観点については久田委員長と小檜山幹事長にて別途検討することとなっており、次回の 16JEES 打合せで検討結果が報告される予定である。

- ・ 前回、前々回の会計の経験から準備金のお金が全然減らないので、準備金を利用してもよいのではとの意見が挙がった。国際的な視点を入れると Web ページ作成費用などの支出が見込まれる。次回の16JEES 打合せにて意見を挙げることとする。
- ・ 事務局にて会場を調査中であるが、700 名規模の部屋がなかなか見つからない。前々回の幕張の時はどのように会場を決めたのかとの質問があった。幕張メッセの時は、他の会場候補が挙がるようなことはなく山崎先生が会場を決めたとの回答があった。
- ・ 700 名は全参加者であり、部屋は 500 名収容できれば十分であるとの意見が挙がった。大宮ソニックシティには 500 名収容のホールと 100 人収容の部屋がいくつかあり、地盤工学会の会場となった実績がある。
- ・ 学校も会場として考えられるが、授業が入ると教室が利用できなくなることが危惧される。
- ・ 関東大震災 100 周年に関連づける観点からは、幕張メッセを会場とするよりも横浜で開催するほうがよいのではないかと意見が挙がった。

## 議 案

### 第 1 号 入退会者（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 55-15 に基づいて入退会者の報告がなされた。入会者：正会員 1 名および学生会員 3 名および退会者：正会員 2 名の入退会について異議なく承認された。逝去者：正会員 1 名（曾田 五月也氏）について報告があった。

### 第 2 号 委員会委員の委嘱（米澤理事）

- ・ 米澤理事より各委員の委嘱に関して、前回から変更がない旨の報告があった。

### 第 3 号 共催・後援・協賛等（西村理事）

- ・ 西村理事より資料 55-17 に基づいて共催 1 件、後援 1 件が報告され、異議なく承認された。

### 第 4 号 役員選挙のオンライン化について（樋口理事）

- ・ 樋口理事より資料 55-18 に基づき役員選挙のオンライン化について説明がなされた。
- ・ 2020 年度の役員選挙において、海外からの投票について問い合わせがあり、二重投票防止に向けて書面による投票を依頼した。ただし、コロナ禍の影響で結果的に投票締め切りに間に合わなかった。一方、選挙規定 14 条には「電磁的投票方法」が明示されているため、電磁的投票方法について具体的な検討時期にあると考えられ、選挙管理委員会にて討議を行った。
- ・ 選挙管理委員会での討議とともに、学会の WEB システムの改修にあわせて、電磁的投票の導入可否をシステム改修委託会社へ事務局にて調査を行った。
- ・ 匿名性を確保し、二重投票防止策を講じたオンライン投票を会員システム上に構築することは問題なく出来るとシステム改修委託会社から回答があった。費用は 50 万程度である。
- ・ 紙で投票すると費用が発生すること、開票は選挙管理委員会委員が事務局に集まり、人手をかけて実施していることや、選挙規定の記載を踏まえ、今回電磁的投票の導入を提案する。
- ・ オンライン投票と紙投票をどのように分けるのかとの質問があった。具体的にどのように分けるかについては、今後業者や事務局と相談して決めていくことになるとの回答であった。
- ・ 投票システムは一旦構築すると見直す必要もメンテナンス費用も必要ない。初期投資に対して 2～3 年で元が取れる見込みである。
- ・ 役員選挙のオンライン化導入は、異議なく承認された。2022 年度の選挙から利用するものとしてオンライン化導入を進めていくこととする。

#### 第5号 ESG研究会の開催について（山中副会長・松島理事）

- ・ 山中副会長より資料 55-19 に基づいて ESG 研究会の開催について説明がなされた。
- ・ 「強震動評価のための深部地盤モデル化手法の最適化に関する研究委員会」のアウトプットのの一つとして、ESG6 で挙げた課題を議論するためのワークショップを開催する。3/31 の京都大学の東京オフィスで実施。発表者は現地で、視聴者は一部先着で現地参加、残りはオンラインで参加とする。ESG6 のブラインド予測の概要報告、地盤構造、強震動予測の報告、ブラインド予測実施者からの発表、研究委員会からの報告と総合討論を行う予定。
- ・ 予算案の収入は参加費計 36 万円、支出は旅費、会場費等で約 13 万であり、収益は 23 万円のプラスを予定している。
- ・ ESG 研究会の開催は、異議なく承認された。

#### 懇談事項

##### 1) 功績賞、功労賞の候補者について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 55-20 に基づき、功績賞、功労賞の候補者について説明がなされた。
- ・ 今年度は功績賞、功労賞、論文賞および論文奨励賞を選考する。選考委員会メンバー、スケジュールについて説明がなされた。
- ・ 前回の正副会長会議では功績賞候補者として吉田望先生、久保哲夫先生をリストアップした。
- ・ 功績賞は推薦書が必要となり、候補者の身近な方に執筆を依頼することになっている。功労賞も推薦書が必要である。
- ・ 功労賞は例年、元総務理事が選出されている。また昨年度は 17WCEE の津波ブラインドコンテストに尽力された有川氏と木原氏が中埜前会長から推薦いただいた。
- ・ 米澤理事より各理事に推薦依頼が送られる。これまでの理事・監事経験者一覧、歴代授賞者リストを参照の上、候補対象者がいれば各理事より総務理事および事務局へ返信することとする。
- ・ 候補者選考スケジュールについて、異議なく承認された。

##### 2) 2021 年度活動報告、2022 年度活動計画・予算案の作成について（米澤理事・西村理事）

- ・ 米澤理事より資料 55-21 に基づき、2021 年度活動報告、2022 年度活動計画・予算案の作成について説明がなされた。
- ・ 次年度の事業計画および予算編成のスケジュールが説明された。12 月に各委員会、部会に資料を配布し、1 月末に提出締め切り、その後総務部会、会計部会を中心に取り纏めを行い、2 月末までに事業計画書、予算案を作成、3 月 11 日の理事会で承認され、内閣府へ提出する。
- ・ 上記に向けた各提出資料および各部会・委員会の依頼先の説明があった。
- ・ 依頼先の方々に事務局より各提出資料作成依頼のメールが送られる。書類には前年度の例が記載されており、修正すべき点があれば修正する。
- ・ 活動計画策定において、委員会開催を Zoom で出来るなら、それを活用した計画とする。

##### 3) 次期理事会の体制について（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 55-22 に基づき、次期理事会の体制について説明がなされた。
- ・ 次期の後継理事を決定する必要がある。次期の副会長と総務理事は会長が人選し、その他の理事は退任する理事が新任理事を人選し内諾を得ることとなっている。次回の理事会までに後任理事を選定する。
- ・ 慶応大学小椋山教授が来年度の理事に就任されることが決定している。
- ・ 人選の際は、分野が偏らないようにバランスを配慮して後任を選定したい。

- ・ 選挙管理委員長は後任理事になると決まっており、鹿島の山田さん（土木系）が決定しているとの説明があった。
- ・ 理事は前に理事を経験された方でも就任可能である。これまでも再任された理事がいる。

#### 4) 来年度(2022年)の年次大会について（市村理事・清野会長）

- ・ 市村理事および清野会長より資料 55-23 に基づき、来年度(2022年)の年次大会について説明がなされた。
- ・ 来年度は対面にて北大で実施する予定である。大会の実行委員長は楠先生が決まっており、理事に就任される予定。対面で実施する際にはオンラインで実施するよりも早く準備する必要がある。
- ・ 2019年度に強度で地震学会と共催し、それ以前に1回四国で実施したことがある。
- ・ 首都圏以外での開催を清野会長と市村理事で検討を行い、北大の中嶋先生に大会の現地開催委員長を受諾いただき、来年の12/15,16に北海道大学にて開催することで調整が進んでいる。
- ・ 基本は現地で実施するが、コロナの感染状況によってはオンラインで実施することとする。ハイブリッド開催は行わない。
- ・ 本懇談事項を議案に切り替える。来年度の年次大会について、異議なく承認された。

#### 5) 法人クレジットカードの作成について（米澤理事、戸田事務局長）

- ・ 米澤理事および戸田事務局長より資料 55-24 に基づき、法人クレジットカードの作成について説明がなされた。
- ・ ペイパルを導入し海外からの送金を受けることができるが、海外への送金は法人クレジットカードに紐づけする必要がある。そのために法人クレジットカードを作成する必要がある。
- ・ 法人クレジットカードの作成について、異議なく承認された。

#### 6) 来年度の事務局の体制について（米澤理事、戸田事務局長）

- ・ 米澤理事および戸田事務局長より、来年度の事務局の体制について説明がなされた。
- ・ 来年度から小松事務局員が週2日の出勤となる。このため週3日程度勤務可能な事務局員を新規に募集した。複数の応募者に対して面談を実施し、有賀佳奈子さんを採用することとなった。今月21日より勤務を開始する。

#### 7) その他

- ・ 次回の理事会後に懇親会を実施するため、開始時間を15時から開催することとする。懇親会は三田周辺を予定している。

次回予定：第56回理事会 3月11日（金）15時～18時  
 （拡大正副会長会議 2月28日（月）16時-19時）

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和 年 月 日

議長 清野 純史



監事 五十田 博

監事 末富 岩雄